

まちづくり活動助成「地域“魅力”アップ部門」
まちづくり活動提案書

1 助成を受けようとするまちづくり活動の提案について

提案名	学区住民の多様な出会いと活躍の舞台づくりプロジェクト ～“役立ち感”を育み 郷土への愛着を高めるために～	
団体名	鳴子きずなの会	
提案の活動を行う地域	名古屋市緑区鳴子学区及びその周辺地域	
提案の内容	<p>【学区の魅力資源】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊富な花・緑、多様な公園 ・質の高い生活基盤 ・多様な地域活動団体、実績豊富な福祉系 NPO ・夏祭り等の地域交流行事 ・鳴子調等の若者グループによる活発な文化活動 等 	<p>【学区の問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他学区以上に少子高齢化が急速に進行し、独居老人や老老介護等の問題を抱える高齢者世帯が急増 ・高齢者の見守りが行き届かず、引きこもりが増え孤独死等の問題も発生 ・高齢化や若者の地域離れによる地域力の低下 ・各種の地域活動団体の連携不足（縦割り） ・住民の絆の希薄化 ・空き家・空き店舗の増加
	<p>【鳴子きずなの会 活動成果（H20～22）】（第1ステージ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地域課題を横断的に検討する「座談会」、多世代の交流と健康づくり「ラジオ体操」、住民の手づくり朝市、高齢者や子どもが主役「福祉文化祭」等、身の丈に応じた多様な地域活動を継続的に実施し、地域の活性化に貢献 ●精力的な地域活動が新聞等のメディアにとりあげられて地域内外に当会及び鳴子学区の知名度が向上 ●一歩ずつ地域住民の絆を深めるとともに、行政や各種団体との協働を深めてきた <p>主な課題 ▲若年層の活躍の場づくりと地域活動への参加促進（まきこみ） ▲当会メンバーの充実及びスキルアップ ▲多様な地域活動団体間の連携強化 ▲高齢者ニーズに応じた安心な暮らしを応援する地域活動の実践（例：見守り）</p>	
	<p>第2ステージへの継続・発展 区役所や都市センター、モリコロ基金等の支援を得ながら活動を発展。今後、学区の環境変化に応じた活動内容の見直しと組織の充実が求められる</p>	<p>【近年の学区の環境変化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆UR鳴子団地の建替、団地内自治組織発足 ◆民間マンションの建設予定（→若年層増加） ◆地下鉄桜通線「鳴子北駅」新設、名二環開通による交通利便性の向上
	<p>【「第2ステージ」にむけて、助成を受けて実現・発展を図りたい3つの活動】</p> <p>提案①：「視察交流会」及び「高齢者支援勉強会」の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢化が進む鳴子学区で、今後様々な団体が協力して“地域ぐるみ”で高齢者の暮らしを支えて、安心して暮らし続けられる地域にしていくことが求められる。 ・今後の高齢者支援のあり方を学ぶとともに、学区の関係団体の交流・連携を深めることを目的に視察会を実施（H23.5.14、清須市『横町思いやりネットワーク』）。 ・緑社協や福祉 NPO、学区連協、鳴子団地自治組織、都市再生機構などの多様な団体から計30名が参加。地域主体の高齢者の生活支援の取組を学んだ。（※当会が世話役となりコーディネート） ・視察を踏まえて、都市再生機構や鳴子団地の自治組織と連携し「高齢者支援勉強会」をさらに2回程度開催。今後の高齢者支援の方向性や取組などを検討する。 	

<p>提案②：鳴子北駅の魅力アップのための「鳴子きずなの花園」づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の新たな拠点となる地下鉄「鳴子北駅」を中心に、鳴子学区の中央公園、そして両地点をつなぐ歩道で、土木事務所と連携を図りながら、花植えやシンボルツリー植樹等の緑化活動を地域主体で行う（緑土木事務所と調整中）。 ・既存の個人単位の小さな美化活動（ボランティア）の芽を大切に育てるとともに、愛護会や小学校、学区が実施する美化活動と連携を図り地域へ波及させる。 			
<p>提案③：協働型まちづくりの扉を開く「鳴子元気横町」の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親子や若者、高齢者等が中央公園や駅そばに集まり、青空のもとでコミュニケーションを深めて、まちに賑わいを創出する地域住民の手づくりイベントを開催する。 ・駅及び中央公園周辺を会場として、子どもの昔遊び大会、高校生ギターデュオやオヤジバンド等の音楽演奏、野点（お抹茶会）、手品発表会など、地域住民が出演者となって自ら「やりたいこと」を実現できる機会を提供する。 ・昨年度実施した「福祉文化まつり」を発展し、地域行事としての定着を目指す。 			
活動期間	平成 23 年 4 月～平成 24 年 3 月	助成金交付申請額	50万円



2 提案内容について

「1 提案の内容」について、以下の4つの視点で具体的に活動内容をご記入ください。

<p>審査基準① 必要性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に根ざしたまちづくり活動内容か ・自分たちの住んでいる地域を住みよい環境にする活動か ・地域との連携や協力が得られる活動か ・活動メンバーのみの趣味活動や仲間づくりではなく多くの人に理解や共感が得られる活動か
<p>■深刻化するニュータウン特有の「高齢者問題」を地域ぐるみで支援する仕組みの検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鳴子団地の高齢者問題を学区全体の問題として位置付け、各種団体が連携・協力して取り組む体制づくりが重要である。そうした課題や解決方策などを検討するために、鳴子団地の自治組織や都市再生機構などの関係団体を巻き込んで、視察や勉強会を計3回程度開催する。 <p>■既存の社会資源（各種組織、活動）のストックを活かし、効果的に成果を生み出す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当学区には、多様な立場から高齢者支援や地域の美化、地域活性化等に取り組んでいる団体が多数存在する。こうした貴重な人的資源を大切に育てるとともに、緑化活動や視察、イベントを通じてゆるやかに結びつけ、暮らしやすい地域づくりの推進体制を効果的に構築していく。 <p>■学区組織（縦糸）とNPO等（横糸）の連携による地域に根差した活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区政協力委員や民生児童委員などの学区連絡協議会に所属する地域団体（縦糸）と、特定分野で専門的に活躍するNPOやボランティア（横糸）を、当会が仲介役となってコーディネートすることで、住民ニーズを踏まえて地域の理解と共感を得ながら活動の輪を着実に広げていく。 <p>※（参考）活動の実績や必要性が認められて学区から助成金を交付</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当会の実績や地域活性化への貢献が評価されて本年度も学区助成金を受けている。組織・活動の必要性についても地域から一定の評価を得ており、期待に応えるべく活動にまい進したい。 	
<p>審査基準② 独創性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・創意工夫にあふれた活動か ・地域性を活かした個性豊かな活動か ・新しい視点やアイデアがあるか
<p>■鳴子の子どもや若者に活躍の舞台を提供し、地域に対する「役立ち感」と「愛着」を育む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鳴子の子どもたちが、地域における活動体験を通じて「役立ち感」や地域に対する「愛着」を育むことができるように、イベントの企画運営等に子どもや若者の参加を促すなど、主体性を引き出す活躍の場づくりに取り組む。当会は黒子役として舞台作り尽力したい。 <p>■「鳴子北駅」という地域の新たな資源を、学区の地域づくりに有効に生かす</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新設された地下鉄駅を核として、学区内に新たな人の流れが生まれつつある。人が集まる駅周辺から学区の中央公園までをモデルエリアとして位置付け、花植えなど住民主体の美化活動を展開することで、駅周辺の快適性を高めるとともに協働まちづくりの意識啓発を促していく。 <p>■「学び」と「問題意識」の共有から、地域組織間の縦割りを解消するきっかけをつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視察や勉強会等を通じて、鳴子学区への想いや問題意識を共有するとともに、お互いの立場や方法論の違いを特徴として理解しながら未来に向けた前向きな「学び・気づき」を深めることで、異なる組織間の連携強化を図る。 	

審査基準③ 実現性	・提案内容が具体的になっているか ・事業予算は妥当か
時期	活動内容
H23年5月 6月 7月 8～9月 10月 11～H24年1月 2～3月	「視察交流会（清須市）」実施（30名） 「鳴子きずなの花園づくり」の開始 （※その後、小学校や愛護会、美化委員会と連携して継続・定例化） 「鳴子元気サミット」開催 「高齢者支援勉強会」の開催（鳴子団地自治組織や都市再生機構等と連携） 「鳴子福祉・文化まつり」開催（学区の年度行事として鳴子台中学校で開催） 次年度の活動計画について定例座談会の場を通し異見交換し企画 成果報告の取りまとめ

助成を受けようとする活動項目ごとの支出内訳書（※別紙参照）

審査基準④ 発展性	・今後の活動の発展にむけての視点や計画があるか ・助成後に地域まちづくり活動への波及効果があるか
<p>■地域協議会組織（地域委員会）への発展も視野にいれた活動の継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当会が活動する鳴子学区の取組は、学区全体の幅広い生活課題について住民が自ら協議し、また関係団体間の調整を図るといった「エリアマネージメント」的な機能を実践している。こうした仕組みは、名古屋市で検討が進められている「地域委員会」にも通じる先駆的な取組であり、鳴子学区における地域委員会にも発展しうるものと考えられる。 ※名古屋市主催の「市民フォーラム」（H23.6.20、アートピアホール）において、半田代表が招聘され、市民協働の好例として当学区の取組を事例報告する予定。 <p>■都市再生機構 及び 団地自治組織 と引き続き連携し、今後の鳴子団地再生を応援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鳴子団地における高齢者支援の問題は、団地内だけで完結する問題ではなく、またその支援の仕組みが近い将来には鳴子学区全体の安全・安心な暮らしに波及していくものと考えられる。 ・5月14日（土）に実施した視察交流会では、鳴子団地内に初めてできた自治組織「やっとかめサロン」や「鳴子団地をよくする会」、都市再生機構なども参加して交流を図った。 ・今後もゆるやかに連携を図りつつ、鳴子団地の再生について協力体制を深めていきたい。 <p>■次代の鳴子学区の発展を担う「未来のまちづくり人」の養成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもや若者は、鳴子学区の未来のまちづくりの担い手であるとともに、現状の取組を活性化させる起爆剤にもなりうる。「鳴子調」や「煌☆」「ゴスペルジョアィア」などのグループをはじめ多くの子どもたちに、「鳴子きずなの花園づくり」や「鳴子元気サミット」等を通じて、地域活動への参加・体験の機会を数多く提供することに努める。 	
審査基準⑤ 活動実績 と主体性	・提案内容につながる地域での活動実績を有しているか （団体の概要、活動紹介、これまでの活動成果等をご記入ください。） ・具体的にどんな熱意を注いでいるか
<p>■活動への想い、団体の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の活力が後退する中、身の丈に合った多様なふれあい活動を行い「人づくり」「仲間づくり」「輪づくり」「担い手づくり」「絆づくり」へと発展させていくことを目指している。 ・現在、様々な団体の関係者や個人有志など約30名のメンバーが活動。さらにプロジェクトごとに各種団体の関係者も加わり、毎月定例の「座談会」の場で鳴子学区の生活課題及び解決方策について分野横断的に意見を交わしている。 ・メンバーの気持ち（主体性）を尊重し、『議論は程々に実践を重視』をモットーに、トライ＆エラーを繰り返して小さな実績を積み上げながら、様々な活動を継続・発展させている。 <p>■活動実績・成果（※はH21都市センター助成をもとに実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学区の生活課題を横断的なメンバーで話し合う月1回の対話の場「座談会」継続中（※） ・多世代の気軽な参加・交流と健康づくりの場「ラジオ体操」を約40名程度で継続中（※） ・地域を歩いて魅力を再発見し「なるこ散策マップ」として作成 ・新城市（中山間地域）の生産者と連携し、手づくり朝市「鳴子トレトレ朝市」を2回開催（※） ・高齢者の生活支援、子どもの活躍を目的として、2回の「福祉文化祭」を開催 ・「鳴子子ども宣言」及び「鳴子学区 未来のまちづくり提言書」を作成して、緑区長及び名古屋副市長等に提言 ・「福祉文化まつり」（朝日新聞）や当会代表の活躍の様子（中日新聞）が新聞等のメディアに取り上げられ、徐々にではあるが鳴子学区の知名度が高まっている。 	

(別紙) 助成を受けようとする活動項目ごとの支出内訳書

活動項目	内訳		金額(円)
視察交流会 高齢者支援勉強会	車両レンタル料	マイクロバス1台	31,500
	謝礼	ドライバーへの運転技術料	7,000
	ボランティア保険	@250円×25名	6,250
	手土産代	視察先への御礼のお菓子代	5,000
	会議費		20,000
小計			69,750
鳴子きずなの花園 (花植え・緑化)	謝金	ガーデニング指導者謝礼	15,000
	消耗品費	軍手、ゴミ袋、看板等	30,000
	会議費	お茶代 @150×200	30,000
	花苗代	@120×300	36,000
	苗木代	記念植樹用の苗木	15,000
小計			126,000
鳴子元気横町	会場設営費	ブース・舞台・音響・ 客席・看板等	150,000
	消耗品費	設営に係る雑貨・文房具等	35,000
	会議費	お茶代 @150×150名	22,500
	謝金・交通費	講師謝礼・交通費	100,000
小計			307,500
共通	事務費	資料コピー代	20,000
		事務用品購入	5,000
	謝金	アドバイザー謝礼(5回程度)	50,000
		きずなの会しおり(改定版)	50,000
	印刷費	@100×5,000(カラー) イベント開催案内チラシ等 @20×3種×1,000(白黒)	60,000
小計			185,000
計			688,250